



(4) ぶらり・お参り・ゆったり 巣鴨：ヤングリーブス

巣鴨のまちは、真性寺、高岩寺、庚申塚という歴史のある3箇所の施設からなり、そこへ参詣にくる人々とその人たち、そして地元住民が買い物する地蔵通り商店街を核としてまちがつくられている。このことより、参詣のまちを保つため、私達の巣鴨のまちのコンセプトを以下のように設定した。

コンセプト

ぶらり・お参り・ゆったり 巣鴨

白山通りの拡幅に伴い、今のまち並みが変わってしまう個所と、よりよい街にするための計画として、以下の6つの案を提案する。

・商店街入り口の空間計画

現在仮設休憩所となっている個所は、道路拡副のためほとんどなくなってしまう。私たちは、地蔵通りの歴史ある道の形状を変えてはならないと思い、現在あがっている歩道計画とはあえて違った提案をしたい。

拡幅して残った三角形の土地と電神堂巣鴨本店横の道路を一体化させ、商店街に入る前に緑ある休憩所を設置する。この入り口には

立ち寄る人々が気軽に、ゆったりくつろぎつつ、コミュニケーションを展開させるため

バス停を隣接させ、地蔵通りの入り口や真性寺から人々を商店街の中へ誘導させるため

巣鴨マップ置き場を設置し、より巣鴨のまちに親しんでもらうための契機の三つの役割を持たせている。

私たちは、真性寺・高岩寺・庚申塚への参拝や活気づいた商店街などの巣鴨の魅力はそのまま残し、今足りない休憩所の設置を第一に考えた。歩いていると、よそから来た客が、座ってのんびりできる公的な場が意外とつくられていないことがよくわかる。

また、今までの商店街への入り口が拡幅のためなくなり、“ぶらり”と“ゆったり”をもっと考慮した、お客様を迎える姿勢のある玄関口が望ましいであろう。

ベンチはよりコミュニケーションのしやすい向い合せ型に配置、その間々にブラタナス等の樹木を植え、木陰づくりと安らぎを人々に与える。白山通り側には巣鴨駅から走行するバスの停留所を設け、人々がより地蔵通り入口から入れるように、また、真性寺にも立ち寄りやすい導線を作る。



また、現在の状況では、観光バスを地蔵通り入り口部分に停車させ参詣者を下ろすことは危険である。なので、公共のバス停部分に並列しバスを停車できる空間を設けた。

・現歩道橋の地下通路化

現歩道橋は、白山通りで分断されている地蔵通り商店街を巣鴨信用金庫をつなぐ大事な役割を担っている。巣鴨信用金庫は、地域の信用金庫として多くの人に利用されている。しかしながら、地蔵通りを反対側からみると歩道橋が邪魔をしていて、あまりよい景観とはいえない状況である。そこで、都営三田線改札から地下道を現歩道橋付近まで延長させ、歩道橋の役割を地下で担えるようにする。また、交番前にある同じ規格のエレベーターも設置し、車椅子の人でも地下通路を利用できるようにする。

・白山通りの植栽

現在、白山通り歩道の利用は、自転車や歩行による通行がほとんどである。目的としては、駅方面から庚申塚方面への通り道とされる。休憩空間として利用している人もいない。このことから、白山通り歩道を休憩スペースとして展開することは、あまり念頭においていない。したがって、白山通りを休憩スペースとして活用するのではなく、歩いて気持ちのよい歩道として整備することを提案する。明るい雰囲気のある歩道、そして、ちょっと休憩ができる程度の腰掛け空間を配す歩道としたい。

現在植栽されているプラタナスをそのまま移植し、プラタナスの間にこの地域の樹木、サツキツツジを植栽する。また、花壇を数箇所配し、地域の小学生たちがまちに触れ合う場として、活用させようとする。

・JR 巣鴨駅から庚申塚までのサイン計画

初めての来客者にとって、商店街側の意図するメインの通りが伝わりにくい。そこで、JR 巣鴨駅と三田線の駅から真性寺、高岩寺、庚申塚へとつづく旧中山道がわかるように、足元を石畳の道にして、まわりのアスファルトの道路と区別し、自然と足を参詣道へ導くようにする。この場合、私たちが計画している地下道も同様に参詣道は石畳に統一する。

地蔵通りの電線を地中化し、景観上すっきりとさせる。そうすることにより、トイレ場所などのサイン等がよく見えるようになる利点も挙げられる。

・トイレ計画

当初玄関口に立てようと考えていたが、入り口から嫌な臭いがするのを避けるため、また人が簡単に入ることのできる場所を考え、高岩寺の歩道部分に作ることにする。歩道に確保されているのが 6000 ミリ、道路に張り出すこのトイレは、道を横として見たとき 2400 ミリ×8000 ミリのものであり、実際に歩行者・自転



車が通る歩道の幅は 3600 ミリというある程度充実した広さになっている。

トイレは、男女別入り口になっており、それぞれに車椅子使用者専用と一般のものが一つずつ、合計 4 つの個室がある。戸は全て滑り込み式引き戸であり、それぞれに手洗い場がつく。お年よりや体の不自由な人にとっても利用しやすい形態を考えた。

・地域教育機関と商店会との関わり

今回の課題は、白山通り拡幅にあたっての提案ではあるが、まちづくりを提案する以上、拡幅のことだけにこだわらない、まちづくりを提案したい。それに当てはまるもので、商店会では、教育機関と共同でなにかを行うということがなされていない現状がある。これからは、住民参加でまちづくりを行っていかねばならない状況にある。そのためには、住民一人一人がまちづくりのプロになっていかねばならない。その育成をするために、学校と商店会が連携し、子どもたちにまちづくり学習を行うことが望まれる。その学習法の例として、巣鴨マップが挙げられる。

巣鴨マップとは、近隣の小学生を主体として商店街、教育委員会などの行政機関が協力しあいながら作る白山通り・地蔵通り周辺の案内図である。この巣鴨マップの目的は、訪れる人に巣鴨をより知ってもらうためと、このマップ作りにより、地元の子どもたちが自分達たちの住むまちをより深く知り、地域ぐるみのいわば縦のコミュニケーションを計るものである。

こうした数々の計画により、新しくできる巣鴨の玄関口を、商店街とお客、地元の大人と子ども結びつきを強くした上で成立させた、新しいまちづくりを期待する。